

平成27年度決算に係る

定期監査調書

平成28年6月

農業試験場

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況	1 頁
3	組織及び業務調べ	1 頁
4	職員の定員、現員調べ	1 頁
5	役付職員の調べ	1 頁
6	主な事業に関する調べ	2 頁
7	収入証紙取扱額調べ	5 頁
8	収入事務処理状況調べ	5 頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	7 頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	7 頁
11	不納欠損額調べ	7 頁
12	負担金、交付金及び委託料支出状況調べ	8 頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	9 頁
14	財産に関する調べ	10 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付及び使用許可調べ	14 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	14 頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	15 頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	15 頁
19	寄附物件の受納状況調べ	16 頁
20	備品の処分状況調べ	16 頁
21	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	16 頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
22	事業別予算執行状況調べ	17 頁
23	農業機械の管理状況	19 頁
24	生産物(品)に関する調べ	20 頁
25	試験研究調査事業別実施状況調べ	21 頁
○	意見・要望等	35 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1)指摘事項 該当なし

(2)監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること (6)水田転作野菜に関すること
	環境研究室	(7)土壌肥料及び土壌保全に関すること (8)主要農作物の病害虫に関すること (9)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(10)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

(平成28年6月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	28.6.1 現在	27.4.1 現在	28.6.1 現在	27.4.1 現在	28.6.1 現在	27.4.1 現在	28.6.1 現在	27.4.1 現在	
定員	1	1	18	18	5	5	24	24	
現員	( ) 1	( ) 1	( ) 18	( ) 18	( ) 5	( ) 5	( ) 24	( ) 24	( ) (7)病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	17	16	18	17	農業技術員17名 事務員1名

5 役付職員の調べ

(平成28年6月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	宮田 邦夫	2	2	(病害虫防除所)
作物研究室長	橋本 俊司	2	2	
環境研究室長	長谷川 優	1	2	(病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	前田 英博	2	2	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>きぬむすめの等級・食味の高位安定化栽培技術の確立</p> <p>決算（見込）額 4,206千円 （財源内訳） 一般財源 4,206千円</p> <p>○将来ビジョン</p> <p>○政策項目</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 本研究では「きぬむすめ」の市場評価の維持・向上による生産者の所得向上を図るため、等級・食味の高位安定化栽培技術の構築を目指す。特に等級、食味が低位に位置するものの改善に注力する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>（1）現地実態調査・解析 県内で栽培された「きぬむすめ」玄米をサンプリング（460点）し、施肥・土壌条件と玄米品質（等級、食味）との関係について解析を実施した。</p> <p>（2）等級・食味の高位安定栽培技術の確立 現場で活用できる最適な生育指標を作成するため、生育ステージ毎の生育が収量および品質へ与える影響を明らかにする栽培試験を実施した。</p> <p>1）水管理（中干し）が等級・食味に及ぼす影響を把握するため、栽培試験を場内で実施した。</p> <p>2）メッシュ農業気象データ（1km<sup>2</sup>四方の推定値）を活用した刈取適期予測を行い、出穂後積算気温と玄米品質との関係を把握する調査を場内および県内11地点で実施した。また、出穂期予測技術の確立のため、県内42地点で出穂期調査を実施した。</p> <p>3）栄養診断で用いる葉色と食味との関係を把握する栽培試験を実施した。</p> <p>4）環境対応新被覆肥料における全量基肥施肥技術の開発のための、栽培試験を行った。</p> <p>イ 平成27年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 「きぬむすめ」の栽培面積は急速に拡大しているため、試験研究成果として提供可能と思われる技術（収穫適期予測、登熟晩限判定）について、現地へ情報提供を行い、現地活用についてスピードアップを図った。</p> <p>ウ 成果</p> <p>（1）現地実態調査・解析 ・多点数調査により県内で栽培された「きぬむすめ」の品質・食味の実態を把握することができ、JA等による現地指導での情報提供に役立った。</p> <p>（2）等級・食味の高位安定栽培技術の確立 ・中干しが、収量・品質に及ぼす影響を確認でき、特に品質向上に有効であると判断された。 ・葉色を目安にした栄養診断による追肥は、収量・品質の改善に繋がり、品質向上対策として有効であると判断された。 ・収量・品質が良くなる収穫適期をメッシュ農業気象データを用いた積算気温により確認できた。 ・適期収穫作業による品質向上を図るため、収穫適期予測を行い、その結果を農試ホームページ等により生産者、JAへ情報提供を行った。 また、H27は登熟期間が低温傾向であったため、標高別に登熟限界の目安を提示し各JA・普及所へ提示し、H28の作付け計画策定に役立てられた。</p> <p>エ 課題 ・H27は、ほぼ目的どおりの試験を実施することができたが、登熟期間が低温傾向であったため、通常の気象条件での試験結果を参考としたデータ蓄積と解析が必要である。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>水田営農の収益性を向上させる経営改善手法の確立</p> <p>決算（見込）額 1,050千円 （財源内訳） 一般財源 1,050千円</p> <p>○将来ビジョン</p> <p>○政策項目</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 優良な水田農業経営体の経営実態を調査し、それをもとに、経営効率の高い作物や栽培型の組み合わせから、目標とすべき営農モデルを作成する。あわせて、労力分散ができる直播栽培技術を確立する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>（1）収益性が向上する経営モデルの確立 県内9つの優良経営体から経営に関する聞き取り調査を実施した。優良経営体の特徴的な部門に関する収益性、労働時間等を把握した。</p> <p>（2）収益性向上につながる低コスト栽培法の技術確立 催芽籾湛水散播栽培に適する播種時期、播種量、除草方法を明らかにした。催芽籾湛水散播栽培では代かき翌日の播種、播種量5~7kg/10a、2回除草が適当であった。</p> <p>イ 平成27年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 新規事業であり改善点はない。</p> <p>ウ 成果</p> <p>（1）収益性が向上する経営モデルの確立 複数の作物や作型を持つ複合経営によって、規模拡大や労力の分散均等化がはかられ、経営体の収益性を高められることが示唆された。</p> <p>（2）収益性向上につながる低コスト栽培法の技術確立 水稻の催芽籾湛水直播栽培という新しい栽培方法について検討し、「きぬむすめ」を用いて、表面播種、出芽期落水により、実用の可能性が示唆された。また、農家が所有している田植機の施肥部分を利用して播種することで機会コストをかけない方法についても、田植機の簡易な設定により可能となる見通しがついた。</p> <p>また、水稻の低コスト技術として現在最も注目されている直播栽培技術の技術確立と普及を早めるため、経営改善に興味のある水田大規模経営体等生産者、JA、関係機関に呼びかけ、「水稻直播研究会」を立ち上げるとともに、2回研修会を開催し、技術の情報提供や事例発表等により理解が深まるよう努めた。</p> <p>エ 課題</p> <p>経営モデルの確立に関しては、経営状況データの分析を早め、現地での経営改善実証試験につなげられるよう、試験研究の強化が必要である。</p> <p>また、催芽籾湛水直播栽培実証を県内全域12か所程度で開始されることとなっており、栽培技術の早急な確立が期待される。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>「ゆうきの玉手箱（忒の重）」技術 確立☆チャレンジ 編</p> <p>決算額 2,904千円 （財源内訳） 一般財源 2,904千円</p> <p>○将来ビジョン I ひらく （4）食のみやこ 鳥取県</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況 （ア）目的 他産業とも連携しつつ、主に水稲・大豆の有機栽培を対象として安定生産及び栽培面積拡大につながる取り組みやすい技術メニューを確立・拡充し、「鳥取県有機・特別栽培推進計画」の着実な推進に寄与する。 加えて、有機栽培に適応する品種および品目を見出し、「食のみやこ鳥取県」を推進する旗頭となるよう、特色ある有機農産物の生産拡大に資する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 農業試験場で育種した鳥系系統の有機栽培適性を把握するため、新たに1系統を供試した。その他、水稲有機栽培における育苗技術の確立、新たな水田除草法（溝切り除草）の効果確認、問題病害虫の抑制技術の検討を実施。</li> <li>2 大豆害虫対策として、地元企業と連携し、安価な防除用の緑色LED灯器材の改良を継続して進めるとともに、試作機材のハスモンヨトウ等ヤガ類に対する防除効果確認試験を場内にて実施。また、野菜等への適用品目の拡大及び、蓄電バッテリーメーカーとの協働も検討している。そのほか、リビングマルチによる大豆不耕起栽培を検討。</li> <li>3 輪作を取り入れた雑草抑制、病害回避、化学肥料に頼らない作物生産のための地力回復、等の効果を継続検討。有機栽培に適した新たな転作品目の検索。</li> </ol> <p>イ 平成27年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 昨年度の結果や現地試験担当農家の意見等を踏まえ、技術の有効性や実現可能性について見極めを行い、優先順位をつけて試験を実施した。光防除用の緑色LED灯器材の改良では、新たに産業技術センターと連携して試験実施する等効率化を図った。</p> <p>ウ 成果 主な成果は以下の通り。 （ア）新たな水田除草法（溝切り除草）の課題と効果を確認した。 （イ）県内LED企業のノウハウを活用した独立電源型の試作機を作製し、大豆及び野菜において、ハスモンヨトウ及び他のヤガ類に対する防除効果を確認した。 （ウ）田畑輪換による雑草抑制効果を確認するとともに、有機栽培に適した品種探索のためナス、甘長トウガラシ、ショウガの有機栽培での特性を把握した。 （エ）他の試験項目に関しても、当初の計画通りほぼ進捗することができた。</p> <p>エ 課題 （ア）単年度データのみでは、特性把握や技術の普遍化が十分できない。年次変動や現地ほ場での適応性等を含めて引き続きデータ蓄積を行う必要がある。 （イ）光防除用の緑色LED灯器材の試作では、低コスト・高性能化への改良を引き続き進めるとともに、適応品目（適応虫種）の拡大を目指す。 （ウ）新たな技術確立、既存技術の改善を進め、さらにメニュー拡充を図る。</p>



【写真】緑色LED灯使用状況

7 収入証紙取扱額調べ

該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成27年12月31日現在)  
(単位:円)

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用料	電柱敷地等	5	55,820	55,820	0	0	鳥取県行政財産使用料	
		職員駐車場	18	378,000	378,000	0	0	"	4月~12月分
	計(節)	23	433,820	433,820	0	0			
目計		23	433,820	433,820	0	0			
合計		23	433,820	433,820	0	0			

(3) 手数料

該当なし

(4) 財産収入

(平成27年12月31日現在)  
(単位:円)

収入目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
生産物売払収入	生産物売払収入	播種用原種(ほか)	72	3,855,546	3,855,546	0	0	生産品事務取扱要領 (物品規則)	
		計(節)	72	3,855,546	3,855,546	0	0		
	目計		72	3,855,546	3,855,546	0	0		
合計		72	3,855,546	3,855,546	0	0			

(5) 諸収入

(平成27年12月31日現在)

(単位:円)

収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
目	節							
農業等検定受託事業収入	農業等検定受託事業収入	1	324,000	324,000	0	0		
		計(節)	324,000	324,000	0	0		
目計			324,000	324,000	0	0		
雑入	預金利息	2	36	36	0	0		
	自販機電気代	3	22,694	22,694	0	0		
	自販機販売取扱手数料	3	33,502	33,502	0	0		
	原稿料	3	43,923	43,923	0	0		
	目計		100,155	100,155	0	0		
合計			424,155	424,155	0	0		



(6) 現金の取扱状況  
ア 現金取扱状況

(平成27年12月31日現在)  
(単位:円)

収入科目(節)	収入済額	備考
生産物売払収入	106,770	場内販売
合計	106,770 (107件)	

イ つり銭の状況

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)

- 9 収入未済額調べ 該当なし
- 10 未回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし
- 11 不納欠損額調べ 該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(平成27年12月31日現在)

(単位:円)

予算科目 (目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月 日	支出金額	支出の根拠法 令 名等(規約、要 綱 等を含む)	備考
(農業試験場費)	175,000	新規該当なし						
新規以外のもの						174,067	ID:15-00018743 ID:15-00050330 ID:15-00050405 ID:15-00061404	
目 計						174,067		
(農作物対策費)	10,000	新規該当なし						
新規以外のもの						10,000	令達元:生産振興課 ID:15-00031652	
目 計						10,000		
合 計						184,067		

(2) 補助金

- ① 国補分
- ② 単県分

該当なし  
該当なし

(3) 交付金

該当なし

(4)委託料

(平成27年12月31日現在)  
(単位:円)

予算科目 (目)	国補 単 原 の 別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			入札等 年月日 (契約保証金 納付等年月 日)	支出の状況			備考	
				予定価格	(契約年月日) 契約額	契約期間		完了 年月日	支出 区分	支出 年月日		金額
農業試験場費	単県	原種貯蔵施設保守点検 業務	(有)オールエンジニア・ サービズ	767,880	(H27.3.24) 767,880 ( )	H27.4.1 ~ H30.3.31	H27.3.20 (免除)	H27.5.7 外 H27.5.8 外	精算	H27.5.15 外	170,640	H27~29年度 債務負担行為 ID:14-00184707
農業試験場費	単県	庁舎警備業務委託	山陰警備保障(株)	312,000	(H27.3.13) 139,968 ( )	H27.4.1 ~ H30.3.31	H27.3.4 (免除)	H27.4.30 外 H27.5.1 外	精算	H27.5.18 外	31,104	H27~29年度 債務負担行為 ID:14-00168567
農業試験場費	単県	廃液処理業務委託	三光(株)	@35円/Kg ほか	(H27.10.28) @35円/Kg ほか	H27.10.28 ~ H28.3.31	H27.9.16 (免除)		—	—	—	ID:15-00101123
農業試験場費	単県	鳥取県産米の食味官能 試験	(一財)日本穀物検定協 会	933,120	(H27.11.17) 933,120 ( )	H27.11.17 ~ H28.3.11	H27.11.11 (免除)		—	—	—	ID:15-00111970
農業試験場費	単県	作業環境測定業務	(一社)鳥取県産業環境 協会	616,000	(H27.7.14) 540,000 (H27.11.10) -192,240	H27.7.14 ~ H28.3.31	H27.7.10 (免除)		—	—	—	ID:15-00108118
農業試験場費	単県	蒸気除草機による除草 効果実証試験蒸気処理 委託	(株)丸文製作所	266,760	(H27.8.10) 266,760 ( )	H27.8.17 ~ H27.9.1	H27.7.17 (免除)	H27.8.28 H27.8.31	精算	H27.9.14	266,760	ID:15-00062513
農業試験場費	単県	LED緑色灯防除試験調 査機材の制作委託業務	(株)フジ電機	723,600	(H27.6.1) 723,600 ( )	H27.6.1 ~ H28.2.29	H27.5.7 (免除)		—	—	—	ID:15-00027281
予 定 価 格 が 20 万 円 未 満 の もの												ID:14-00174960 ID:14-00174978 ID:14-00183095 ID:15-00037660
目 計											103,659	
合 計											572,163	

14 財産に関する調べ  
(1)公有財産  
ア 土地

行政・普通財産 の 区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減別	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月 日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	
行政財産	農業試験場圃場	鳥取市橋本字原 繩手144-2外	27,011.58	0	増加	H					27,011.58	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字立 石162外	48,552.90	0	増加	H					48,552.90	0	
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字井 字ノ上206-1	4,986.00	0	増加	H					4,986.00	0	
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字井 字ノ上	3,619.00	0	増加	H					3,619.00	0	
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字下 藪江215-1外	6,032.00	0	増加	H					6,032.00	0	
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字上 藪江220外	5,855.00	0	増加	H					5,855.00	0	
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字加 源谷225-1外	3,252.82	0	増加	H					3,252.82	0	
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字 奥ヶ谷224外	19,987.95	0	増加	H					19,987.95	0	
	計			119,297.25	0			0.00	0.00		119,297.25	0	
	普通財産	なし										0.00	0
計			0.00	0			0.00	0.00		0.00	0		
合計			119,297.25	0			0.00	0.00		119,297.25	0		

イ 建物

行政・普通財産 の 区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考
			面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減別	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	増減理由	登記年月 日	面積(m <sup>2</sup> )	価額(円)	
行政財産	農業試験場本館	鳥取市橋本	2,423.60		増加	H					2,423.60	0	
	付属棟	"	182.00		増加	H					182.00	0	
	渡廊下	"	24.00		増加	H					24.00	0	
	収納舎	"	495.00		増加	H					495.00	0	
	油倉庫	"	7.70		増加	H					7.70	0	
	車庫	"	118.67		増加	H					118.67	0	
	自転車置場	"	27.36		増加	H					27.36	0	
	土壌調査室	"	43.74		増加	H					43.74	0	
	土壌殺菌室	"	24.30		増加	H					24.30	0	
	計			2,423.60							2,423.60	0	



行政・普通財産 の 区分	土地の権利区分	機関名又は施設 名等	所在地	土地の面積等						立木の推定蓄積量				
				前年度末 面積(m <sup>2</sup> )	増減別	異動日	面積(m <sup>2</sup> )	増減理由	登記 年月日	本年度末 面積(m <sup>2</sup> )	前年度末 現在高(m)	本年度中 増減高(m)	本年度末 現在高 (m)	
														増加
行政財産	所有	農業試験場	鳥取市橋本字 興ヶ谷291-1外	3,508.95	増加	H				H	3,508.95			0.00
					減少	H				H				
計				3,508.95	増加	H	0.00			H	3,508.95	0.00	0.00	0.00
					減少	H				H				
普通財産	なし				増加	H				H	0.00			0.00
					減少	H				H				
計				0.00	増加	H	0.00			H	0.00	0.00	0.00	0.00
					減少	H				H				
合計				3,508.95			0.00				3,508.95	0.00	0.00	0.00

工 動産 該当なし

才 物 権 該当なし

力 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等) 該当なし

(ア) 異動状況

(イ) 出願及び登録の状況

(ウ) 活用の状況

キ 有価証券 該当なし

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成27年12月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 35,712	円 100,180	円 85,984	円 49,908	
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
図書カード	10,000	0	0	10,000	職員が講演した際の主催者からの謝礼
クオカード	2,000	0	0	2,000	職員が外部団体からのアンケートに回答した際の謝礼
合 計	49,512	100,180	85,984	63,708	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ  
 (1) 土地及び建物  
 了土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H24.4.1	H14.4.1	H24.4.1~H29.3.31	9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258		
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H26.3.5	H16.3.31	H26.4.1~H31.3.31	7,480	7,480	鳥取市商栄町117-3 中国電力(株)鳥取営業所		
	ソフトバンクモバイル携帯電話基地局	鳥取市橋本260	16.0㎡	H25.3.1	H15.10.24	H25.4.1~H30.3.31	18,700	18,700	東京都港区東新橋1-9-1 ソフトバンクモバイル		
計							35,180				
普通財産		該当なし									
計							0				
合計								35,180			

イ 建物

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	1.28838㎡	H24.4.1	H21.4.1	H24.4.1~H29.3.31	19,920	19,920	東京都江東区亀戸1-42-20 ネオス(株)		
計								19,920			
普通財産		該当なし									
計							0				
合計								19,920			

(2) 物品 該当なし

16 借受不動産明細調べ 該当なし



17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ  
 (1) 職員住宅  
 該当なし

(2) 職員駐車場  
 ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況  
 (行政財産)

月別	前月末		当月減		当月増		当月末		調定額	収入済額	収入未済額
	人	人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免	人			
4月	40	7			7		40		40,000		
5月	40	0			2		42		42,000		
6月	42	0			1		43		42,000		
7月	43	0			0		43		43,000		
8月	43	0			0		43		43,000		
9月	43	1			0		42		42,000		
10月	42	0			0		42		42,000		
11月	42	0			0		42		42,000		
12月	42	0			0		42		42,000		
1月											
2月											
3月											
合計									378,000	378,000	0

18 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

(平成27年12月31日現在)

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度		備考
					車検年月日	修理費等	
普通貨物 トラック	H22	鳥取100 さ60-65	H22.7.29	24,951 km	H27.9.15	133,476 円	車検
合計		1台		0		0	

19 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

20 備品の処分状況調べ

(平成27年12月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格 円	不用決定 年月日	不用とする 理由	売却・売却 の別	処分			備考	
								売却方法・売却理由	処分年月 日	売払額		処分費用 円
産業用無人ヘリコプター	1	H7.6.9	15	7,143,307	H27.5.27	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.7.22	-	0	納品業者による 無料引き取り
エアコン	1	H14.10.21	6	109,200	H27.8.17	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.9.10	-	1,404	家電リサイクル 法に従い手数料 支払、処分
カラーテレビ	1	H4.7.20	5	87,000	H27.8.24	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.9.10	-	2,916	
電機溶接機	1	S46.5.26	15	58,000	H27.8.28	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.11.9	-	0	産業廃棄物とし て委託契約内 の処分
ボール盤	1	S40.4.1	15	120,000	H27.8.28	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.11.9	-	0	
顕微鏡写真装置	1	S55.2.15	5	62,000	H27.11.25	修理不能のため	売却	修理不能のため	H27.11.26	-	0	
検出器(ECD)	1	H4.3.30	5	236,385	H27.2.25 (H27.4.1)	使用しない ため	売却	業務廃止に伴うもの	H27.3.30 (H27.4.1)	-	54,000	製造会社により 有料引き取り (H26)
動力運搬車	1	H6.5.23	7	1,328,700	H27.10.9	更新のため	売却	一般競争入札		50,001	-	買い取り人への 引き渡し待ち
合計	8			9,144,592						50,001	58,320	

21 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

(2) 物品の照合

照合年月日	現物確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
27年11月10日 ～	・ 有 ・ 無		
27年12月11日			

2.2 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)2箇所を修繕	

目 名	人事管理費	(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
非常勤職員欠員補充等	病休職員代替え	

目 名	農業総務費	(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
先端的農林水産試験研究 推進強化事業	H28試験設計意見交換会構成員及びH27水田転作野菜研究会構成員の特別旅費、 「平成27年度農林水産関係研究リーダー研修」出席にかかる普通旅費及び役務費、	
農林水産総務課管理運営費	新規採用者宿泊研修謝金(報償費)	
農林水産試験場臨時的調査研究事業	「飼料用米の安定生産技術の確立」事業に係る消耗品費	

目 名	農業改良普及費	(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
普及職員研修費	普及指導員資格試験受験にかかる普通旅費	

目 名   農作物対策費		(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
生産振興推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名   肥料植物防疫費		(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農薬適正使用推進事業	農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の制裁を支援する。農業試験場では県特産物のうち、ラッキョウなどのマイナー作物(年間出荷量が3万トン以下の作物)で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、農作物中の残留農薬分析を行った。	

目 名   農業試験場費		(平成27年12月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
施設整備費	本館耐震補強設計委託料及び評定手数料	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修繕費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
トラクター	キセキ NT43FFUG CY	H25.6.28	耕地整地、 代かき	67	782	102,376	222,804	前輪タイヤ交換、耕運 爪等購入修理	
トラクター	クボタ ZL1-33	S61.5.7	"	20	114	15,018			
トラクター	ヤンマー FX435	H4.5.15	"	36	165	21,560	299,181	ブレーキ修理、油圧 ホース破損修繕	
トラクター	クボタ GL367QBS MAP	H10.4.27	"	27	310	40,653	291,146	マイコンユニット修 理、パブルアッシ修理	
種子用コンバ イン	ヤンマー CA135PT	H3.9.30	稲刈り	1	10	1,260			
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H9.9.22	"	7	60	7,665	33,815	搖動板修理	
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17.6.30	"	10	95	12,155	16,578	エレメント・Vベルト 交換	
コンバイン	ヤンマー AE330 XJU	H23.8.31	"	12	66	8,376			
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H1.9.5	"	0	0	0			
種子用ハーベ スタ	ヤンマー PKD600T	H4.3.10	"	2	3	378			
テラー	ヤンマー YTA-6S	H2.6.11	収穫物等運 搬	0	0	0			
テラー	ヤンマー YT-400	H4.5.29	"	10	11	1,470			
テラー	クボタ TD 700	H18.5.8	"	21	21	2,790			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17.5.2	"	67	47	6,336			
動力運搬車	ライガー GX-101	H6.5.23	"	46	23	3,078	2,592	ワイヤー交換	
動力運搬車	築水キャニコムELL80 1KZPW	H9.10.1	"	105	27	3,484	74,023	圧着端子修理、バッテ リー・後輪タイヤ交換	
小型特殊自動 車	ロードガロ SL620JBA	H27.7.23	"	42	49	6,344			
耕うん機	ヤンマー YS-80	S57.11.30	耕地碎土、 畦立	2	2	268			
管理機	ヤンマー ST-512	H1.9.25	除草土寄、 畦立	1	2	283			
管理機	エースローターIKSAR600	H3.7.9	"	1	3	408			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11.4.23	"	10	13	1,490	21,503	爪セット・ボルト・エ レメント交換	
管理機	ヤンマー HK80XL	H20.6.16	"	6	10	1,415			
乗用管理機	ヤンマー A-10GH	H24.1.18	"	8	32	4,495			
田植機	イセキ PC-S270	H14.4.30	田植	10	20	2,765	10,584	苗送りロットピン、 アーム苗送り修理	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H9.5.20	"	0	0	0			
乗用田植機	イセキ PM40D-DCUW	H7.5.8	"	4	11	1,509	45,220	カム破損修理	
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H15.5.16	"	7	27	3,734	92,038	シャフト等修理	
乗用田植機	クボタ NSU67-SP 2, SJ-6N	H23.5.23	"	10	24	3,396			
バインダー	BE-50A	H17.7.29	稲、麦刈	11	15	1,996	41,548	結束修理	
バインダー	ヤンマー YB 65	H1.9.18	"	8	10	1,328			
バインダー	ヤンマー YB-50	H4.2.25	"	2	3	416			
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H6.11.18	大豆刈取	6	48	6,048	6,944	ファンベルト、ジェネ レーター駆動ベルト他 交換	
不耕起播種機	みのる PFT-6-1	H8.10.1	乾田直播用 播種	0	0	0			
フォークリフ ト	小松 FG09-2	H9.10.16	収穫物等運 搬	90	112	14,777	72,000	検査及び部品交換	
歩行型マル チャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H9.7.15	耕うん、畝 立、マルチ	0	0	0			
大豆脱粒機	PBT610	H16.3.23	大豆脱穀機	4	4	527			
シリンダカッ ター	CX-201S	H17.9.30	藁用カッ ター	4	1	134			
自走式動噴	VSC457F-10	H27.1.16	作物防除	25	29	3,974			
合 計				682	2,149	281,906	1,229,976		

24 生産物(品)に関する調べ

(平成27年12月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積	生産計画数量	生産数量		場内使用	売却		処分数量				分類換	差引残	備考		
				前年度からの繰越	生産購入		数量	金額	目的外使用		廃棄	計					
									数量	金額		数量				金額	
水稻	原種	228.2	5,978	7,092.1	0.0	155.0	408.0	178,208				kg	6,529.1				
				0.0	16,746	356	16,450	1,850,320						kg	0		
								508,654									
麦類	原種	10		568.4	568.3	5	450	126,992				73.8	594.9			25年出荷分	
	一般																
大豆	原種	122.7	3,877	3,744.3	0.0	82	1,010	562,657	1.5	0			2,650.5				
	一般	54.4	550	0.0	724	0	724	0					0			26年出荷分	
小計								201,908									
野菜	白ネギ	9.0	3,000	0	989	0	851	86,840					0		10月:110円/束 11月~:100円/束		
	ブロッコリー	9.0	400	0	1,078	0	897	44,850					0		数量単位:個 50円/個		
	アスパラガス	0.7	50	0	798	0	798	79,800					0		数量単位:束 100円/束		
	セルリー	0.4	10	0	115	0	55	7,700					0		数量単位:束 140円/束		
	枝豆	3.0	5	0	92	0	92	9,200					0		数量単位:袋 100円/袋		
	甘長	0.1	30	0	567	0	567	34,020					0		数量単位:袋 60円/袋		
	なす	0.1	50	0	300	0	300	24,000					0		数量単位:袋 80円/袋		
小計								286,410									
合計								3,855,546									

1

事業名	水稻新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,614,000円) 823,084円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稻新品種の育成	場内  智頭町 倉吉市	初期世代 40a 生産力検 定 26a 現地試験 10a	鳥取県における水稻の各栽培地帯及び栽培体系に適應する優良品種を育成する。	(成果) 98組の交配、98組のF1個体養成、85組の世代促進、集団養成・選抜、181系統の系統養成・選抜、153系統の生産力検定を行った。  (課題) 気候温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。

2

事業名	奨励品種等選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,604,000円) 743,554円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 12ヶ所	40a 45系統  各10a 極早生粳 2ヶ所各1系統 早生粳 4ヶ所各2系統 中生粳 3ヶ所各1系統 極早生糯 1ヶ所1系統 中生糯 2ヶ所1系統	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため鳥取農試、独立行政法人、公立試(福井県農業試験場ほか6機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 13系統を継続とし、25系統を打ち切りとした。 (2)本調査 6系統を継続とし、1系統を打ちきりとした。 (3)現地調査 本調査と同様の6系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。  (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 4系統 六条大麦 1系統 5a 二条大麦 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は1系統を有望、3系統を継続とし、六条大麦は1系統を打ち切りとした。 (2)本調査 二条大麦の1系統を打ち切りとした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。  (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 3ヶ所	15a 11系統  各10a 早生 3ヶ所各1系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 6系統を継続とし、3系統を打ち切りとした。 (2)本調査 1系統を継続、1系統を打ち切りとした。 (3)現地調査 本調査と同様の2系統を供試し、調査結果を上記の判定活用した。  (課題) 新規系統を含め、本県において栽培に適した優良品種を選定



3

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,446,000円) 656,261円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。	場内	20a 1品種	水稲 高温登熟に優れる「鳥系93号」や「あきさかり」の穂肥時期や穂肥量の違いによる生育、収量、品質等への影響を明らかにする。	(成果) 水稲 「鳥系93号」、「あきさかり」とも「コシヒカリ」よりも高い収量性が認められ、穂肥は幼穂長1mm時と4mm時の相違はなく、窒素量2kg/10aが妥当と判断された。両品種とも「コシヒカリ」よりも収穫適期幅が長く、品質が良質である傾向が見られた。
	場内	3a 2品種	大麦 「しゅんれい」「シュンライ」の出穂期予測を継続するとともに、有望品種「アスカゴールデン」の生育データを蓄積する。	大麦 葉耳間長によって実用的な出穂期予測が可能で、データ蓄積により精度が向上した。予測情報は現地に情報提供し、活用された。
	場内	1a 3系統	大豆 早生有望系統の晩播、密播適性の把握	(課題) 水稲 高温登熟性にすぐれた品種・系統等の栽培特性の検討
水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供	場内 県内現地 15カ所	場内7a 坪刈2～3 地点/箇所	「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」の生育データの集積するとともに、それらの生育情報について随時現地に提供を行う。	(成果) 生育推移や収量等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。
				(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信

4

事業名	きぬむすめの等級・食味の高位安定化栽培技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(4,206,000円) 3,065,891円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 本研究では「きぬむすめ」の市場評価の維持・向上による生産者の所得向上を図るため、等級・食味の高位安定化栽培技術の構築を目指す。	県内きぬむすめ栽培ほ場(延べ数) 場内 鳥取 岩美 八頭 倉吉 湯梨浜 三朝 北栄 琴浦 大山	10ヶ所 8ヶ所 1ヶ所 7ヶ所 4ヶ所 3ヶ所 11ヶ所 3ヶ所 4ヶ所 2ヶ所	6 主な事業に関する調べに記載	(成果) 6 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 6 主な事業に関する調べに記載

5

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稻)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,642,000円) 927,952円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稻の原原種の採種	場内	18.8a	水稻原原種の選抜、維持。	(成果) 「コガネヒカリ」6系統、「ひとめぼれ」28系統、「コシヒカリ」24系統、「きぬむすめ」24系統、「おまちかね」12系統、「ハクトモチ」20系統、「鳥姫」20系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稻原種の採種	場内	210a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」、「きぬむすめ」、「日本晴」、「おまちかね」、「ハクトモチ」、「鳥姫」について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原原種の採種	場内	10.7a	大豆原原種の選抜、採種。	(成果) 「タマホマレ」30系統、「サチユタカ」32系統、「緑だんだん」22系統「鳥取大山2001」18系統、「三朝神倉」27系統、について、選抜、採種を行った。 (課題) 「鳥取大山2001」においてウイルス病が多発し、ほ場審査で全系統が不合格となった。
4.大豆原種の採種	場内・現地	141a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「サチユタカ」、「タマホマレ」、「緑だんだん」、「鳥取大山2001」、「三朝神倉」について採種を行った。 (課題) 「鳥取大山2001」においてウイルス病が多発し、ほ場審査で全系統が不合格となった。
5.麦の原原種の採種	場内	5.3a	大麦原原種の選抜、採種。	(成果) 「しゅんれい」42系統、「ダイセンゴールド」17系統について、選抜、採種を行った。 (課題) 「ダイセンゴールド」において、湿害による発芽不良及び生育のばらつきにより13系統が不合格となった。
6.麦原種の採種	場内	37a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) 「しゅんれい」、「ダイセンゴールド」について採種を行った。 (課題) 特になし。

25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

6

事業名	水田営農の収益性を向上させる経営改善手法の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ~ H29年度		(予算額) 支出済額	(1,050,000円) 696,463円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.現地で実施されている特徴的な低コスト直播栽培法の課題解決と技術確立を行う。	場内 県内現地 2ヶ所	10a  100a	6 主な事業に関する調べに記載	
2.優良な水田農業経営体の経営実態をもとに、目標とすべき営農モデルを作成する。	県内現地	9経営体		

7

事業名	「ゆうきの玉手箱（弐の重）」技術確立☆チャレンジ編		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H25年度 ～H29年度		(予算額) 支出済額	(2,904,000円) 976,595円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 1. 水稻有機栽培における適性の高い品種の探索、育苗・移植技術の確立、除草方法の改善並びに病害虫の抑制技術の検討	場内 倉吉市	24a 20a	6 主な事業に関する調べに記載		
(単) 2. 大豆有機栽培における高付加価値品種の栽培法確立並びに病害虫対策の検討	場内 倉吉市 八頭町	11a 20a 40a			
(単) 3. 有機栽培下での輪作による雑草抑制、病害回避、地力回復等の効果検討	場内	11a			
(単) 4. 転換畑における有機栽培に適した新品目の探索	場内	室内解析			

事業名	有機栽培「トレジャー技術」を協働で 発掘・解析・検証拡大する事業		担当室別	有機・特別栽培研究室
実施計画期間	H26年度 ～		(予算額)	(2,145,000円)
			支出済額	1,119,375円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 有機栽培現地実践ほ場の調査・検証(概要調査) 1) 水稲作	鳥取市 八頭町 北栄町 岩美町	有機栽培 水稲ほ場 4グループ 7ほ場	新規に有機栽培の取組みを始めた農業者を対象に、水稲4事例の実態を調査。生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 新たに2つの事例(木村式自然農法、紙マルチ栽培)を加えた4つの優良事例の実態調査を行い、技術の解析を進めている。 (課題) 引き続き、データの蓄積を進め、現場にフィードバックできるよう解析を進める。
2) 畑作(大豆、らっきょう)	大山町 南部町 鳥取市 北栄町	有機栽培 大豆ほ場 2グループ 4ほ場 らっきょうほ場 2グループ 2ほ場	新規に有機栽培の取組みを始めた農業者を対象に、畑作物4事例(大豆・ラッキョウ)の実態を調査。生育収量等のデータ蓄積と解析、問題点の抽出、技術的なサポート等を行う。	(成果) 大豆では、雑草対策として田畑輪換の実用性が高いことが明らかとなった。また、現場ではマメシクイガの食害の深刻な実態が明らかとなった。また、らっきょうでは追肥による増収効果および蒸気除草法による除草効果程度を明らかにした。 (課題) データ蓄積および解析を図るため、次事業でも引き続き大豆、らっきょうとも調査を行う。
(単) 2. 先進的な水稲有機栽培技術の科学的解明(詳細調査)	鳥取市	有機栽培 水稲ほ場 1グループ 10ほ場	前事業の3カ年の現地調査で抽出された優良農家(1事例)を対象として、雑草対策技術のメカニズム並びに環境要因(土壌条件等)が生育収量に与える影響を解析する。	(成果) 抑草効果が認められている土壌表面膨軟層の形成にイトミミズの関与が示唆されることが前年度までに明らかとなった。本年度からは、イトミミズと土壌との関係について、重点的に調査し、解析を進めている。 (課題) イトミミズと土壌との関係についての詳細調査を継続し、データの蓄積・解析をさらに進める。
(単) 3. 水稲の有機栽培体系化技術の実証展示	場内 鳥取市	12a 23a	農業試験場が確立・体系化した技術等をモデル的に場内及び現地ほ場で実証展示すると共に、現地での適応性を確認する。	(成果) 雑草発生量が甚大な現地ほ場を新規に県東部に選定し、除草技術の実証を行った結果、農家慣行の栽培法よりも雑草繁茂を低く抑え、収量性は改善し、除草技術を実証できた。 (課題) 生産者の指向する農法にさらに近づけた技術にアレンジする必要性がある。
(単) 4. 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」との連携	室内		当団体で有機農業者相互の情報交換・研鑽が円滑に実施されるべく協力する。	(成果) 「鳥取県有機農業推進ネットワーク」の研修会が本年度は3回開催された。これらの活動について、サポートを行った。

25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

9

事業名	水稻・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H27年度～		(予算額) 支出済額	(1,776,000円) 975,165円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単・委)</p> <p>鳥取県の水稲・麦・大豆栽培において被害につながる病害虫を対象に、本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立し、</p> <p>(1) 安定生産および高品質化、(2) 防除の省力・低コスト化、(3) 人と環境にやさしい農業の推進を図る。</p>	<p>場内</p> <p>八頭町</p> <p>八頭町</p> <p>三朝町</p> <p>三朝町</p> <p>琴浦町</p>	<p>30a</p> <p>30a</p> <p>10a</p> <p>20a</p> <p>10a</p> <p>20a</p>	<p>1 水稻の種子伝染性病害(イネもみ枯細菌病)の防除対策の確立</p> <p>※各種防除資材の効果検討</p> <p>2 水稻中生品種における病害虫防除体系の確立</p> <p>※「きぬむすめ」(高品質米の安定生産を目指す)</p> <p>※飼料米用「日本晴」(低コスト化を目指す)</p> <p>3 イネいもち病の薬剤耐性菌発生下における防除技術の確立</p> <p>※苗いもちの効率的防除体系の検討</p> <p>※新規剤の効果と実用性確認</p> <p>4 ダイズにおける病害虫防除技術の確立</p> <p>※ダイズ害虫マメシンクイガに対する効率的防除技術の確立</p>	<p>(成果)</p> <p>1 水稻の種子伝染性病害 新規育苗箱施用剤の現地実用性がないことを確認し、現場へ情報提供。</p> <p>2 水稻中生品種における病害虫防除体系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地における発生実態を調査し、データを蓄積。</li> <li>・いもち病、紋枯病、ウンカ類およびチョウ目害虫について、育苗箱施用剤(新規剤、既存剤)の防除効果を検討。</li> </ul> <p>3 イネいもち病(薬剤耐性菌)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・苗いもちに対するケイ酸資材の防除効果、葉いもちに対する新規剤の防除効果を検討。</li> </ul> <p>4 ダイズ病害虫(マメシンクイガ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェロモントラップによって、発生消長と発生盛期を解明。</li> <li>・薬剤の防除効果と散布適期を検討。</li> </ul>
				<p>(課題)</p> <p>なし</p>

25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

10

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(470,000円) 217,061円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 鳥取市 八頭町 八頭町	25a 20a 20a 10a	殺菌剤およびその混合剤5剤、殺虫剤およびその混合剤13剤、計18剤の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)14剤、B(実用性がある)3剤、C(効果は低い実用性あり)1剤、D(実用性低い)は該当なしであった。  (課題) なし

25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

11

事業名	水稻大豆等新除草剤適用性試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H24年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(680,000円) 357,097円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 1.水稻新除草剤試験	場内	10a	水稻用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 9剤について実用可能と判定した。  (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.効果の高い除草剤使用方法の確立	場内	10a	現地に普及する除草体系について、実規模面積での実証を行う。	(成果) 2剤について実用性があると判断した。  (課題) 普及に移す除草剤の実用化の検討



事業名	食のみやこブランドを支える特産豆類の生産性向上試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(400,000円) 219,133円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 剪葉摘心の処理時期と処理高さの検討	場内	40a	本県育成地大豆3品種における剪葉摘心処理の時期および高さの検討	(成果) 剪葉摘心によって節数が増加し、着英数が増加することによって、倒伏を抑制しながら慣行栽培と同等以上の収量性が得られた。 (課題) 6月播種での検討
2. 密播無培土栽培と剪葉摘心処理の組合せによる生産性向上	現地ほ場	80a (大山町2箇所)	地大豆品種の密播無培土栽培体系における剪葉摘心処理効果の検討	(成果) 現地主産地のほ場において、密播無培土体系でも分枝節が発達し、倒伏を抑制しながら着英が確保できた。 (課題) 6月播種での検討と防除体系の改善
3. 小豆における無培土密播栽培の確立	現地ほ場	40a (淀江町1箇所)	小豆における密播無培土栽培体系の増収効果等の検討	(成果) 大納言小豆、小粒白小豆とも、密播無培土栽培によって、慣行培土栽培と同等以上の収量を確保できた。 (課題) 年次変動の確認

事業名	水田転作野菜の安定栽培技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H23年度 ～ H27年度		(予算額) 支出済額	(940,000円) 532,345円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水田転換畑における白ネギ適品種の選定及びかん水効果の検討	場内	9a	水田転換畑での有望品種の選定 条間短縮の検討 土寄せ作業改善による秋冬ネギの収穫安定	(成果) 比較的排水の良い状態であれば、普通畑で有望な品種は収量・品質とも優れる。 土寄せ時にモミガラを施用することで白ネギ株元への培土が増加し、作土層の浅いほ場における条間短縮の可能性が示唆された。 土寄せ時にモミガラを施用することで降雨後の通路の乾燥を促し、作業に入りやすくなる。 (課題) ほ場排水性の向上による作期幅の拡大
2.アスパラガスの生産安定と新植栽様式の検討	場内	3a	定植方法の違いによる収量の検討	(成果) 簡易溝区、堆肥盛り区ともに慣行区と同程度の秀品収量を収穫初年度から4年間継続して得られており、いずれも簡易な栽植様式として有望と考えられる。 (課題) 慣行に比べ、より簡易で省力的に定植方法の確立
3.新規品目の検討	場内	4a	黒大豆エダマメの摘心栽培の検討	(成果) 苗を摘心することで徒長を防ぎ移植適期を長くすることができると考えられた。ただし、增收効果は認められなかった。 (課題) 未検討の新規品目の検討
4.小型機械・器具による簡易排水技術体系の開発	場内及び場外		小型管理機等による明渠の施工、再施工後の形状変化	(成果) 明渠施工にトラクタ装着型の明渠掘機、再施工に小型管理機を利用することにより、施工後の崩落を軽減することが可能と思われた (課題) ネギ移植を容易にする簡易作溝の検討
5.小型機械・器具による簡易排水技術体系の開発	場内	20a	早春のトラクタ作業を可能とする作業技術の検討	(成果) サブソイラーの施工を野菜栽培前年秋に実施することによって、高い排水性が維持できると考えられた。 (課題) 局所排水技術のマニュアル化

## 25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

14

事業名	水田転換畑における自給飼料の安定生産技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H26年度 ～ H29年度		(予算額) 支出済額	(2,059,000円) 1,183,073円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水田転換畑における飼料用 作の施肥改善 および排水対 策等について 検討し、安定 生産技術の確 立を図る。	場内 鳥取	8a 29a	高品質な発酵粗飼料用ダ イズを得るための栽培技術 の確立を図る。また、飼料 用トウモロコシの高位安定 化を図るため、効率的な施 肥の検討を行う。	(成果) 飼料用ダイズの刈取り時期別収量および粗 蛋白質含有率を明らかにした。また、イタリ アアンライグラスの実用的な抑草効果を明らか にした。 飼料用トウモロコシ栽培において、土壌の 高pHに起因する初期生育阻害が発生してい る事例があることを明らかにした。 (課題) なし

## 25 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成27年12月31日現在)

15

事業名	畦畔管理技術の確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H27年度 ～ H28年度		(予算額) 支出済額	(739,000円) 407,540円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 芝類を用いた畦畔管理技術の確立	場内  県内現地 3ヶ所	法面 50㎡  法面 580㎡	・畦畔法面における芝の持 続性、導入法(時期、播種法 等)を明らかにする。	(成果) ・冬芝の一種のハードフェスクは、試験法面にお いて播種後3年間地表を被覆し他雑草を抑え、 草刈りがほぼ不要であった。 (課題) ・一部の現地試験地でハードフェスクの枯死が 見られたため、原因を解明する必要がある。
2. 除草剤を用いた畦畔管理技術の確立	場内  県内現地 1ヶ所	畦畔・法面 80㎡  法面 60㎡	・投資の少ない管理方法とし て、除草剤の選定、処理適 期等を明らかにする。	(成果) ・グラスショート液剤は多草種に対して効果的 で、草刈り1回+液剤散布1回の省力体系により 酷暑期の作業を回避できる可能性が示された。 (課題) ・処理時期により効果に違いが現れたため、処 理適期を明らかにする必要がある。

16

事業名	土壤保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,092,000円) 613,468円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜農地管理実態調査＞ 地球温暖化防止と土壤肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内13ヶ所の水田、畑、草地 (場内9、鳥取2、倉吉1、伯耆1)	土壤理化学性調査、断面調査、 (18項目)、アンケート調査	適切な土壤管理法の確立にむけた土壤中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 地目別では樹園地及び草地、土壤別では黒ボク土で炭素貯留量及び窒素貯留量が高い傾向があることを確認した。  (課題) なし
(単) ＜土壤機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壤の実態調査を行い、土壤管理や土壤改良のための基礎資料とする。	県内6ヶ所の水田、畑 (三朝1、北栄3、倉吉2)	土壤理化学性調査、断面調査、 (36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。	(成果) 計画通り調査を実施。  (課題) なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

なし